

今を生きる子どもたちに

温かい居場所を

令和2年11月5日に開催された

「子どもの居場所づくりネットワーク会議」。

「コロナ禍の中で臨んだ会議での意見を踏まえ、

今後の「居場所づくり」を考えます。

本市では、平成31年3月に「田川市子どもの貧困対策推進計画」を策定。国が取り組む重点施策に沿った本市の既存事業（74事業）を推進するほか、子どもの貧困対策に取り組み団体への支援も継続して実施しています。また、特に重要な「子どもの居場所づくり」については、市独自の新施策を実施。子どもの居場所づくり事業費補助金を創設して、事業に取り組み団体などを支援しています。さらに、市内で子どもの居場所づくりに取り組む団体などが相互に連携し情報交換を行う「田川市子どもの居場所づくりネットワーク会議」（以下「同会議」と略称）を立ち上げました。



▲子どもの居場所づくりに取り組む4団体の代表のほか、保健福祉課のコーディネーター（森田竜治課長：写真奥）を含めた5者で協議しています

居場所づくりの現場は今 田川市子どもの居場所づくり ネットワーク会議の声

未曾有のコロナ禍。手探りの活動

感染拡大が始まった昨年初め頃から、感染リスクの回避を検討。入所している高齢者の安全のため、介護施設での取り組みは当面休止。子ども食堂では、店内飲食から弁当配布に切り替えた。今後は「いつどのように再開するか」が課題である。必要な支援や助言を行政機関などに求めながら準備を整えたい。

学生ボランティアの重要性

子どもの居場所づくりにおいて、学生ボランティアの支えは大きい。子どもにとって「頼れるお姉ちゃん・お兄ちゃん」という大切な存在になっている。しかし、派遣先での感染リスク（移す・移される）を考慮すると、学生と派遣先の双方の感染防止対策が徹底されていることが要件となる。

子どもの居場所を増やしたい

今後、居場所づくりに取り組む団体を増やし、ネットワークの輪を広げることが必要である。資金や人材の確保、行政手続きなど、ハードルは高い。始めようとする団体が円滑に事業化できるよう、さまざまな関係機関と繋ぎ、支援や助言を受けられることが望ましい。

社会福祉法人
ななせ
竹下 真大 理事長



花野の香
山本 敬子 代表



福岡県立大学
原田 直樹 准教授
社会貢献・ボランティア
支援センター長



社会福祉法人
むつみ会
重藤 隆宏 施設長



ことができる場所で営まれていきます。こうした居場所が過剰なこと、食事の提供や学習支援を受けたり、子ども同士や大人と交流したりして、心身ともに健やかに育つことが期待されています。

現在、市内にある子どもの居場所は2か所。介護施設や飲食店が運営しており、従業員などのほか、ボランティアスタッフとして福岡県立大学の学生などが参加し、子どもたちと交流を深めています。しかし、昨年11月5日に開かれた同会議では、コロナ禍の影響で厳しい運営状況になっている現実が明らかになりました。また、想定外の事態を受けてもおお、子どもの居場所をどのように継続していくか、居場所を増やすためには何が必要かなど、今後を見据えたさまざまな意見が出されました。

本市が目指す社会は「今を生きる子どもたちが、いかなる環境下にあっても将来に希望を抱き健やかに育つ社会」です。コロナ禍もまた「いかなる環境」のひとつ。経済の悪化や生活の困窮、心身のストレスなど、急激な環境の変化が子どもたちに押し寄せています。市として、これまでに以上に関係機関や団体と連携を密にし、子どもの居場所づくりに必要な支援を続けていきます。地域のみならず、企業や団体のみならずのご協力をよろしくお願いいたします。



子ども食堂においでよ！

市内で唯一の「子ども食堂」を運営する「花野の香」は、居酒屋を経営する飲食店です。平成29年7月に田川地区で初めて子ども食堂を開設。現在まで、2,000食以上を無償提供し、居場所を守り続けています。令和2年7月には、からあげ店をオープン。子ども食堂の2号店として支援の輪を広げています。



▲子ども食堂で弁当を受け取る子どもたち



【子ども食堂】

- ・居酒屋 花野の香 (☎46-0151)
中央町・石炭記念公園口交差点付近
- ・からあげ 花野の香(☎090-1877-0151)
伊田・鎮西団地内

【食事の提供】

- 毎週土曜日11時30分～13時
- 子どもたちに弁当を配布（中学生まで無料）
- ※事前に電話で申し込みが必要です。
- ※子ども食堂は1月2日(土)も営業しています。



コロナ禍でも、居場所は必要。
子どもたちのために、今日も開けます。

花野の香
山本 敬子 代表



地域の温かい支援や店舗スタッフと学生ボランティアの力、子どもたちの笑顔に支えられ、4年目を迎えています。コロナ禍で苦境に立たされていますが、消毒の徹底や店内飲食から弁当配布への切り替えなど、感染予防に努めながら休まず続けています。毎週顔を合わせ、少しずつ打ち解けていく子どもたちの姿を見て「居場所」の大切さを感じています。貧困や孤独など、さまざまな背景を持った子どもたちは、みなさんの身近にいます。しかし、どんな子に支援が必要なのかは、なかなか見えないものです。だからこそ、誰でも気軽に訪れることができる居場所が、子どもたちには必要なのではないかと思います。